

## THE FIRST SLAM DUNK ネットバレ

今回の主役はPGの宮城リョータです。

桜木花道ではありません。

宮城リョータは原作で主役級6人のうち、唯一過去が明かされておらず、出身中学はおろか、どのような選手であったのかも明かされていませんでした。

凄い選手だった事は三井編でマネジャーのアヤコさんが「リョータに絡んだのもリョータがただ生意気だったからだけじゃなく、期待の新人だったから自分(三井)が失ったものを持っていたから」という話があったり、入学時に自分で「いずれ神奈川No.1ガードと呼ばれる男です。今はただのグッドプレイヤーですが」と言っていたり、綾南の田岡監督が宮城を獲得しようとしていたりした事でわかりますが、肝心の試合等の描写は一切ありません。

今回はこの謎だった部分にスポットが当たります。

宮城は沖縄県出身で3歳上の兄と、何歳下かはしりませんが妹、母親の4人で暮らしています。

物語は宮城が9歳の時から始まります。

兄のソータは小学生ながら周囲から期待されるほどの凄いバスケットプレイヤーです。父親が亡くなった時も母親に「自分がこの家のキャプテンになる」と気丈に母を支えようとするしっかりものです。

しかしリョータと秘密基地のようにしている海の洞穴で一人泣いていたりもします。

リョータはそんな兄にいつもバスケを教えて貰っていました。

そんなある日、リョータが「もう一本ION1」とお願いしますが、海に出る約束をしていたため断ります。

そんなソータに「ばかややろう、もう帰ってくんな」と叫びます。

しかし…

ソータは海難事故で命を落としてしまいます。

ソータは赤いリストバンドをリョータは黒いリストバンドをしています。

そこから物語は一気に山王工業編に飛びます。

リョータはソータがしていた赤いリストバンドをとり「それじゃいってくるよ」と言い山王工業戦に向かいます。

ここからは基本的に原作準拠の山王工業戦とリョータの過去編を織り交ぜて物語が進んでいきます。

山王工業編の内容は割愛します。

リョータはソータが亡くなってからも一人バスケットを続けます。

しかしソータほどの活躍が出来ず偉大な兄に劣等感を抱くと共に母親にも「生きているのが自分でごめん」と思って生きていきます。

ユニフォームもソータと同じ7番を付けます。

そんなリョータに母親は兄を意識しすぎる事を辞めさせるべく兄の遺品を整理、沖縄から神奈川に引っ越す事を決め、リョータにも「7番じゃなくていい」と言います。

しかしリョータはこれらに反発し母親と喧嘩します。

物語は進みに神奈川の団地に引っ越します。

沖縄では自由にバスケットをしていたのに、団地の前で練習していると「うるさい」と怒られます。

慣れない神奈川に戸惑うリョータ。

転校先では不良グループに睨まれ、校舎裏で暴行を受けます。

原作を見ている我々はリョータが返り討ちにすると思いきや普通にボコられます。

一人バスケットコートで練習するリョータの前に、不良になる前の三井が現れます。

「一人で練習してても折角の技術が勿体ないぞ」と練習相手をします。

三井とソータを重ねるリョータ。

物語は進み、三井編に入ります。

連練習中、赤木に「今のパスはそんなに格好つけなくても良い。お前のプレイはチャライ」

「お前はもっと喋れ」と叱責されます。

「今のパスの方が早い。味方が反応出来ないのは情けない」というような事を言い返します。

厭味な三年生の先輩が「聞き流せ聞き流せ、アイツはいつもそうだ」と赤木を非難します。

「合わない本当に合わない」と帰宅中に愚痴を言うリョータに同級生の安田が「赤木さんはリョータに期待しているから」と言います。

その時、前から不良となった三井グループが現れます。

「誰が期待されているって。バスケは身長が命だろう」と三井に馬鹿にされます。すれ違い様に「おいロン毛今度俺と 1On1 で勝負しろ。負けたら坊主にしろ」と言い返し、ダッシュで安田と逃げていきます。

三年生の引退試合の日、リョータは1年生なので当然ベンチです。

あの厭味な先輩の下手糞なパスに「あーそんなパスじゃ。俺を（試合に）出せよ」と言ってTシャツを脱ぎ、ユニフォーム姿になります。

しかし試合に出る事はなく、結局 20 点以上差を付けられて負けます。

不良になった三井もこっそり見に来ており「下手糞」と言って会場を後にします。

更衣室で厭味な先輩が皆に聞こえるように大声で「あーこれで終わりだ。お前ら俺らがいなくなったらいよいよ恐怖の支配が始まるぞ、特にお前（リョータ）は半年も持たねーな」と練習にストイックな赤木に厭味を言います。

厭味な先輩に歩み寄る赤木。

てっきりぶっ飛ばすのかと思いきや「宮城にはパスがあります」と告げます。

リョータと赤木に信頼関係が生まれた瞬間です。

その後、三井グループに呼び出されるリョータ。

三井に「お前にその眉毛が気に入らねー」と言われれば、震えながらも「俺はあんたのそのサラサラヘアが気に入らねー」と言い返します。

三井に殴られるもチョーパンで反撃、しかしいくら何でも 5 対 1 ではボコボコにされバッシュも蹴られます。

家に帰った宮城は何でこんな目に合うのかと泣しバイクで無謀運転をします。

ふと沖縄の景色が見えた次の瞬間、ボロボロの状態でベッドの上で目を覚まします。

どうやら大変な事故を起こし生死の境をさ迷ったようで「沖縄の景色が見えたよ」と呟くりョータに母親は起こります。

傷が癒えたリョータは一人故郷沖縄に戻ります。

以前住んでいた自宅前を通り、ソータと練習したバスケットコートで寝転がるリョータ。  
大雨が降り出し、ダッシュであの洞穴に行きます。

ソータのカバンを探すリョータ。  
ソータのカバンからは空気の抜けたバスケットボールと山王工業が特集された月間バスケットが出てきます。

ソータとの思い出を振り返るリョータ。  
ソータに「そうちゃん（ソータの事）は大きくなったら山王に行くの」と聞くリョータ。

しかしソータは「いや、こうだろう」と「山王工業」と印字された部分に「に勝つ」とマジックで書き込みます。

「宮城ソータ選手のシュートが決まりました。山王工業に勝利です」と未来の想像を話すリョータ。

そんなソータとの思い出を思い出し号泣するリョータ。

一人コートでソータのバスケットボールでドリブルをつくりョータ。  
バスケットに向き合う決意をします。

神奈川に戻り練習に行こうとするリョータの前に髪を切った三井が現れます。  
「嘘、部に戻るの」と驚くりョータ。深く一礼して体育館に入る三井。  
リョータが主役のため、「バスケがしたいです」の名シーンはバツサリカットされました。

神奈川の自宅に戻ったリョータは山王工業戦前夜に母親に手紙を書きます。  
初めは「生きてるのが自分でごめん」と書き出しますが、すぐに捨て「バスケをするとそうちゃんを思い出すと思うけど、それでもバスケを  
続けさせてくれてありがとう。明日はそうちゃんが立つはずだった舞台に立ってきます」と書きます。

山王戦前にはアヤコさんに「とりあえず緊張したら手を見よう」と言われ、試合中随所に手を見るシーンがあります。

山王工業編では随所にリョータを主役にする描写が追加されます。

特に印象に残ったのは、試合途中皆を呼び円陣を組むリョータ。

「さぁ赤木さん」と声をかけるリョータに赤木が「ここはお前が」と返します。

リョータが「1, 2, 3!」と言い5人で「おし!!」と言って試合に臨みます。

試合中、落ち着きを無くした始めた自分を含めたメンバーを落ち着かせるためボールを持ったあとすぐにドリブルをつかず「ふー」とワン呼吸入れるリョータ。

山王戦ラスト 10 秒切り 1 点差。

エンドラインからボールを出そうとする赤木。

原作では「くれ!」という流川にすぐパスしますが本作ではリョータにパス出そうとする赤木に、目線で「流川へ」と指示します。

この3点の追記は印象的でした。

山王工業戦勝利後、母親がいる湘南ビーチに行くリョータ。

母親に「山王戦はどうだった」と聞かれ「怖かった。ドキドキした」と告げるリョータ。

物語は最後を迎え、アメリカに留学した山王工業のエースで日本一のプレイヤー沢北の試合の場面になります。

インタビューを受ける沢北。

「自分は小さい方なのでPGをやりますが、つい自分ガンガン行っちゃって」と返答します。

一人トイレで「おえ」と吐いている選手の足元が映ります。

誰かと思えば、何と沢北と同時にアメリカに留学したリョータがコートに現れます。

そして沢北とPGでマッチメイクする所で物語は終了します。

本作で一番変更された箇所でした。

## ○感想

非常に面白かったです。

まずフル CG で描かれた絵が綺麗で、実写もしくは本物のバスケの試合を見ているようでした。

声優交代の不安もありましたが、桜木の声に少し違和感があったものの概ね気にはならなかったです。

宮城の過去編と山王工業編がメインでしたが、難しかったと思います。

北斗の拳のラオウ伝もそうですが、いくら主役を変えようとしても原作準拠で行くとどうしても原作の主人公が活躍する事になります。

本作でも過去編は良いとしても、山王工業編ではどうしても桜木が目立ちます。

だから出来るだけ宮城にスポットが行くように三井の「バスケがしたいです」や安西先生、桜木の「断固たる決意」のシーンはカットされています。

賛否ありますがこれは仕方ないと思います。

衝撃のラストも賛否あると思いますが物語中何度か沢北に対して同じ「2年」という表現をしており、ラストへの伏線だったのでしょう。

自分は、あのラストは衝撃的で有りと思いました。

原作では強気で喧嘩も強く、ビビるような描写は一切ありません。

しかし本作では弱気な部分もあり、繊細な描写がいくつも描かれます。

新しい宮城リョータとして、主人公の宮城リョータとして描かれているのだと思います。

しかしこの内容であれば SECOND、THIRD と続くように思えないですが…

ひょっとすると「THE FIRST」は「最初の」ではなく「一番の＝最高のスラムダンク」という意味かもしれません。

しかしそれなら BEST や NUMBER ONE になりますし。

やっぱり続くのかなあ。

まあ続いてくれた方がファンにとっては嬉しいですが。

今度こそゴリゴリのバスケ試合主体にして、海南戦や綾南戦をリメイクしても面白いかも知れませんが（そうか未映像化の豊玉戦か…）

ちなみにいつも言う事ですが、展開やセリフは正確ではありません。

1回しか観ていないのでご了承願います。

とにかくスラムダンクファンにはぜひ観賞してほしいと思います。